

津森小学校と地域の絆

津森小学校の全校児童数は105人。寺中、小谷、堂園、杉堂、上陳、下陳、北向、田原地区の子どもたちが通います。学年の中で児童数が多いのが1年生のクラスです。

「津森小は昔から、地域の方々の温かい関係が築かれています」と話すのは、村上修司校長(58)です。生徒たちが作物を栽培している「伍三郎農園」は、個人の農地が小学校に寄付されたものです。また別の田んぼでは、JAかみまじきの青壮年部の協力により米を育てています。学校では秋の収穫が終わると、PTAが協力して、「おにぎりパーティー」が開かれるそうです。

心温まる話もう一つ。津森小の卒業生は、厄入りの年に母校に記念品を寄贈するのが慣例だそうです。



「地域の方のご協力に感謝しています」と津森小の村上校長



元気な笑顔をカメラに向ける津森小1年生の皆さん

いつまでも、母校への感謝を忘れない心が伝わります。

そして津森小では、毎年11月5日に「いのちの日学校集会」が行われます。1949(昭和24)年11月5日、八代日奈久沖で津森小の修学旅行生が乗った遊覧船が転覆し、当時の6年生22人と教職員1人、校医1人が犠牲になりました。「集会では関係者の方からお話を聞かせてもらい、子どもたちは命の大切さを学んでいます」と村上校長は話します。



津森出身の教育者「志賀哲太郎」の顕彰碑

また津森小の隣には、明治・大正期、日本の統治下にあった台湾に渡り、現地の教育に命をささげた、津森出身の教育者・志賀哲太郎氏の顕彰碑が立っています。



田植えの準備も着々と。校内で育てた苗も大きくなって